

岩澤 咲哉さん（18） 刑務官

（令和7 年度普通科総合進学コース卒業）

●剣道一色だった高校生活

高校生活を振り返ると、部活動の思い出しかありません。一番の思い出は、遠征で福岡や滋賀県に行ったこと。試合には負けてしまったけど、怒られたことも最高の思い出です。顧問の先生はいつも厳しかったけれど、時間を割いて面接練習を何度もしてくれたり、寄り添って的確なアドバイスをくれたり、一番信頼できる存在でした。

●刑務官という仕事

刑務官の仕事を知るきっかけになったのも剣道でした。刑務所の中に剣道の道場があり、部活でたびたび訪れる中で、刑務官の方々に触れ、刑務官になりたいと思うようになりました。卒業してから刑務官となってまだ半年、厳しいと思うことも多い仕事です。

高松刑務所は比較的大きい刑務所で、常時 500 人以上の受刑者が全国から集まります。受刑者の作業や運動、入浴も見守ります。特にお菓子を仕分けて手渡すときは、絶対に間違いが許されず、何度も見直します。長時間にわたり、きびきびと動かなければならず、常に緊張感を持って取り組まなければならないので、正直に言って大変な仕事です。しかし、受刑者の更生支援や刑務所の安全を維持する、社会に貢献できるやりがいのある職業だと思います。

刑務官になって一番大切にしていることは、職場の同僚との人間関係です。職場は縦社会なので、あいさつや礼儀には気をつけています。あるとき、自分が備品を壊してしまうというミスをしてしまい、困っていると、先輩がかばってくれたことがありました。仕事の一つ一つを教えてくれる先輩には、感謝しかありません。また、体調管理をしっかりして休まないように心がけています。自分が休んでしまうと、ほかの同僚が出勤しなければならないの



で、そこは迷惑をかけたくありません。

この仕事は大変ですが、4日に一度ある夜勤の後は休みで、比較的休日が多いことはうれしいポイントです。給料も自分にとっては満足でき、公務員という身分も魅力です。刑務官という仕事に興味を持っている人にメッセージを。

「刑務官は責任感が必要な仕事です。リーダーシップが取れる人や、素早く判断できる人が向いていると思います。将来、刑務官になりたい人は、しっかり刑務官採用試験の勉強をして準備をしてください。」

●海釣り最高！

同期の中には高松中央高校の卒業生もいて、心強い仲間。お仕事が休みの日には、仲の良い同期の8人と近くの海に釣りに行くことが楽しみだそうです。

岩澤さんは勤務時間後、刑務官の部活の練習を終えてから、今回のインタビューのために駆けつけてくださいました。社会人としてスタートされた岩澤さん、これからも高松中央高校で学んだ経験を活かして、ますます頑張ってください。（令和7年9月取材）

